

「アリス、スタンリーとナジン」(ケニア、2020)
かつてはアフリカ中部全体に生息していたキタシロサイだが、密猟によって個体数は激減。ナジン(左)は生き残った2頭の

うちの1頭だ。アリスとスタンリーの夫婦はケニア中部で暮らしていたが2017年の洪水で家を失った。現在、夫は電気技師、妻は洗濯業を生業にしている

THE DAY MAY BREAK 霧の中に佇む 気候変動の 罪なき犠牲者

PHOTOGRAPHS BY NICK BRANDT



世界は今、各地で気候変動が原因の大規模な山火事や洪水、記録的な熱波や干ばつに見舞われている。イギリスの写真家ニック・ブランドトは、気候変動で最も生活と生命を脅かされる人々と野生動物を、一緒に写真に収めるプロジェクトを開始した。

地球規模の環境破壊を告発する最初の写真集として今年発刊された「The Day May

Break」でブランドトは、自然環境が失われつつある現状を「霧」を使って象徴的に表現した。人々と動物は同じ霧の中にたたずむ。人間も動物も等しく、地球という小さな惑星に暮らす住民だからだ。

被写体となった野生動物は、いずれもケニアやジンバブエで保護された動物たち。動物たちは生息域の減少や密猟、有毒物の摂取などに苦しめら

れ、二度と自然の中に戻ることはできない。

一方、被写体の人々は、その多くが何年も続く干ばつで土地を追われた。サイクロンで家を破壊されたり、洪水でわが子を失った人もいる。

ブランドトは記す。「地球環境にわずかな影響しか及ぼさない人々が、気候変動の最大の被害者であることは、残酷な皮肉だ」



「パトリックとフラミンゴたち」
(ジンバブエ、2020)
鳥たちは送電線に引っ掛かった

り、汚染水を飲んだりしてジンバブエのクインバシリ野鳥公園に保護された。パトリックはハラレ

近くのチベロ湖で漁師をしていたが、水位の低下で漁獲量が激減したため漁業を諦めた

「リチャードとオクラ」
(ジンバブエ、2020)
カンムリクマタカのオクラは、ジンバブエのクインバシリ野鳥公園で保護された。森林破壊でカンムリクマタカの生息

域も急速に失われている。ジンバブエ東部に住むリチャードは、かつてはトウモロコシ農家だったが2010年以降の干ばつで生計を立てるのが難しくなっている



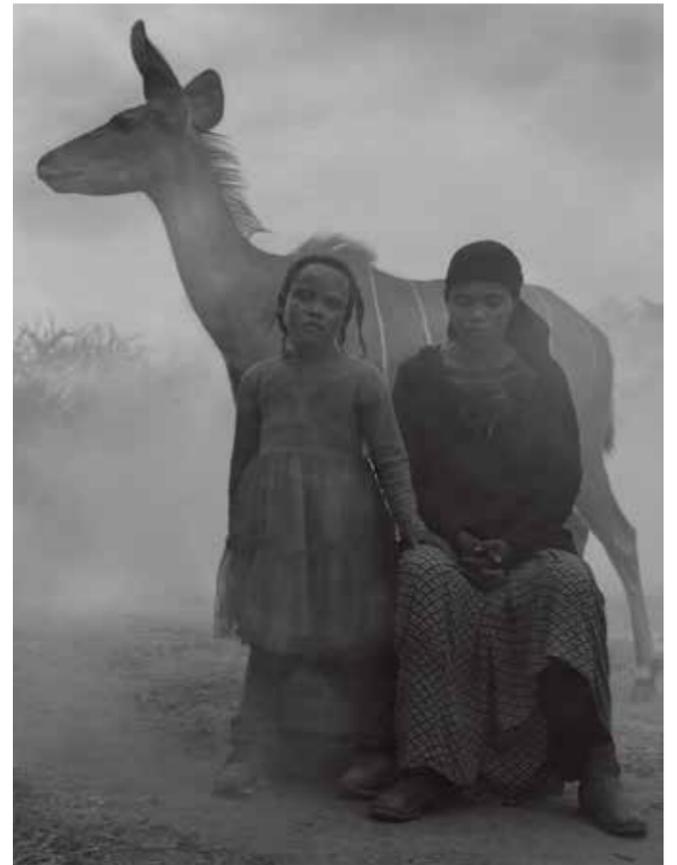
「レジーナとジャック、リーバイとディーゼル」
(ジンバブエ、2020)
チーターのディーゼルとリーバイは生後6週間で動物保護区に引き取られた。生息地域

の減少でチーターの個体数は激減している。首都ハラレ近郊に住むレジーナとジャックは農業で生計を立ててきたが、干ばつで水が不足し、今は生活支援に頼らざるを得ない



「ギスイとキマンジョ」
(ケニア、2020)
ケニア中部に住んでいたギスイは干ばつで農業ができなくなり、今は歩くのが困難で仕事に就けない。

シマウマのキマンジョは、生後間もなくケニアのオルジョギ動物保護区に保護された。母親はおそらく密猟者に殺されただろうという



「ザイナブ、その母ミリアムとフリーダ」
(ケニア、2020)
メスのクーズー(ウシ科の動物)のフリーダは、2018年にオルジョギ動物保護区で保護

された。母親は密猟者に殺された可能性が高い。ミリアムと娘のザイナブは、17年の洪水で家が流された。夫は2人を残して家を去り、ミリアムは今ビール工場働いている



「ファトゥマ、アリとブバ」
(ケニア、2020)

ゾウのブバは8歳頃だった1989年に他

のゾウと一緒に保護された。両親はジンバブエの個体管理のための殺処分プロジェクトで殺された。アリとファトゥマの

夫妻は牧畜を営んでいたが2010年以降の干ばつにより全てのヤギとウシが死に、食べ物にも事欠く状態に

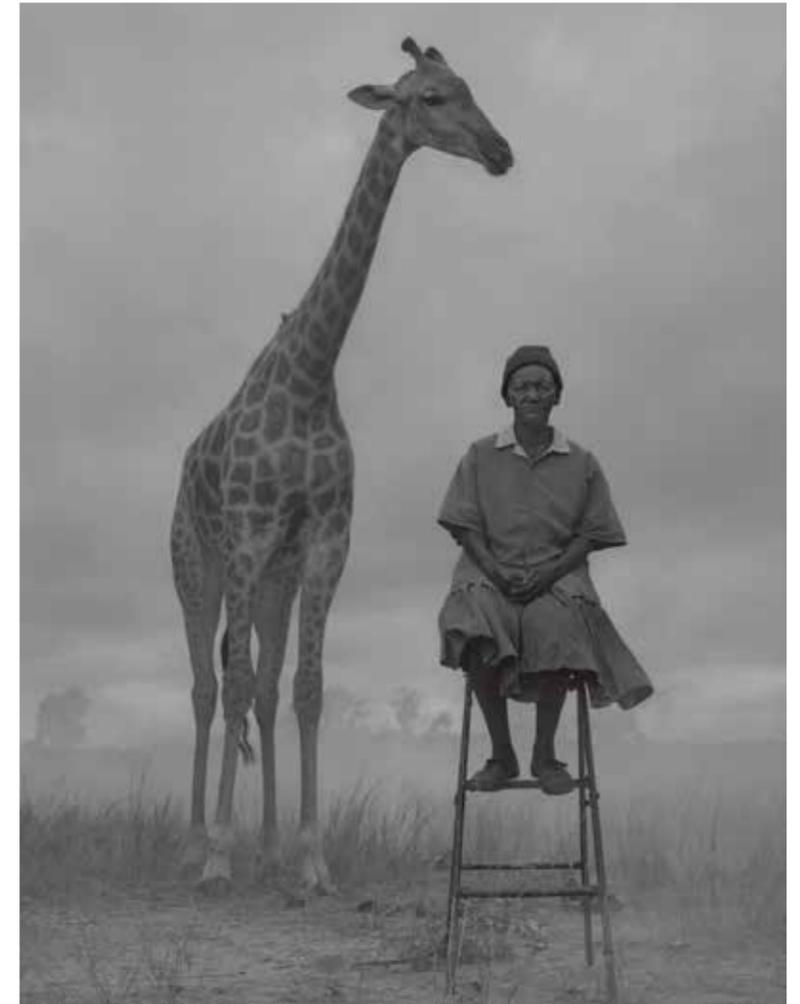
▶ Photographs by © Nick Brandt, courtesy of Fahey/Klein Gallery, Los Angeles

撮影:ニック・ブランド ロンドン生まれ。美術大学で映画と絵画を学び、2001年から東アフリカで野生動物をテーマに作品を制作。10年、ビッグ・ライフ基金を設立し、アフリカの生態系保全のための活動を続けている。著作に写真集「This Empty World」(2019)、「Inherit The Dust」(2016)などがある。本作は最新写真集「The Day May Break」(独ハッチェ・カンツ社)からの抜粋で、同名の展覧会がロンドン、ドバイ、オスロのギャラリーで開催中

「ヘレンとスカイ」
(ジンバブエ、2020)

の個体数は3万頭以下にまで減ってしまった。ハラレ近郊に住むヘレンは夫を亡くしており、2019年の干ば

つで農作物が全滅し、飼っていたニワトリも病気でほぼ全羽が死んだ。今は極度の貧困状態にある



「ジェームズとファトゥ」
(ケニア、2020)

キタシロサイのファトゥは、オルベジェタ自然保護区に保護された生存する2頭のうちの1頭で冒頭写真のナジンの娘

だ。ケニア中部ムランガのジェームズはかつては広い農地を持つ農家だったが干ばつで2015年に破産。ケニアでは多くの元農家が失業して肉体労働に職を求めている